

第2回北広島町地域公共交通会議議事録

開催日時／平成27年11月6日（金）午後10時～

開催場所／北広島町役場 本庁 4階 会議室

■出席委員（敬称略）

加藤、河内、山根（辰）、山根（清）、上原田、山根、壽老、平田、橋渡、小田、友田、正地、齋藤、櫻井（平賀代理）、寺口（木村代理）、山本、堀田（高）、田中、堀田（和）、濱田、大谷

■事務局

山根（北広島町企画課長）
近藤（北広島町企画課地域振興係長）
中祖（北広島町企画課地域振興係主任）

1 出席状況

委員26名中、委任による代理出席を含め19名の出席があった。

北広島町地域公共交通会議設置要綱第9条第2項の規定による委員の過半数の出席を得たので、この会議が成立することを確認した。

2 議事進行

北広島町地域公共交通会議設置要綱第9条第1項の規定により、交通会議の議長は、加藤副会長が議長となり議事を進行した。

3 報告事項

平成27年10月3日に北広島町地域公共交通網形成計画策定調査等業務プロポーザルを行った。選定委員は 加藤副会長、河内委員、松田委員、友田委員、齋藤委員であった。

平成27年10月19日に㈱バイタルリードと業務委託契約を締結した。

4 議事結果

（1）北広島町地域公共交通網形成計画策定調査等業務の事業計画について

本業務の事業スケジュール、内容について説明した。委員からの意見を参考に今後、業務に取り組むこととした。

（2）北広島町地域公共交通網形成計画策定調査等業務の各アンケートの実施及び乗降調査の実施について

本業務において実施するアンケート案について説明した。委員からの意見を反映して実施することとした。

5 審議における主な意見

（1）北広島町地域公共交通網形成計画策定調査等業務の事業計画について

委員：住民のアンケート調査について、前回イメージでは全住民の実態調査をするというイメージだったが、検討する中で変更となったのか？

- 事務局：ある程度絞らないとアンケートも有効なものが得られないという提案があったので変更した。大字も配慮、公共交通の要請の高い地域にも配慮した形で実施されるという事、世帯内で公共交通を必要としている人に優先的に答えて頂くやり方でニーズを把握していくという事を理解頂きたい。
- 委員：幅広い層でアンケート、ヒアリングを行うという事だが、新しい需要を取り入れるという事で町外の方、特に観光客等のヒアリングは予定しているか？
- 事務局：現時点ではアンケートの予定はない。上位計画ではターゲットが自家用車の利用者となっている。実際には着地型のものがあり、公共交通をうまく活用する方法はある。行政機関、観光関連等にヒアリングをかけて公共交通と一緒にできることは、サービスを提供する側からのヒアリングにはなるが計画には盛り込んでいきたいと思う。
- 委員：事業者として観光客の交通利用の実態の把握は出来ているか？
- 委員：観光客というか創価学会の墓参が多く、高速バスで来てデマンドタクシーを利用される。入込観光客の数字には入っているのではないか。
- 事務局：先ほどの話しの中でもあった通り、様々な活用方策が考えられるとのことで、事業者へのヒアリングや、乗降調査の中で高速バス、路線バスの利用者の把握やヒアリングを実施する中で観光ニーズも含めて調査できると思われる。
- 委員：すでに前回の会議から2か月予定が遅れているように見えるが、これだけのボリュームのものを3月までに計画作りが本当に出来るのか？また五ヵ年計画を作ったものをどのような形で活かしていくのか？
- 委員：スケジュール的には厳しい、パブリックコメント等ずれ込む可能性があるが、年度内には作成したい。五ヵ年計画については、誰がいつやるかまで作る。計画を作って終わりではなく実際に動いていくことが必要になる。そのために国に出すような計画を作成する。
- 委員：予算を伴う話になるが、町が県や国から予算を取ってその事業をしていく考えか？
- 事務局：必要であればそう考える。
- 委員：3月末までに翌年の事業を行えるのか？
- 事務局：翌年については事業の準備期間と考えている。年度後半に追加の要望も含め、事業の展開をしていく見込みはある。
- 事務局：補足します。網形成計画を策定すると、国の方から2年間、利用促進に関する補助がある。わかりやすい時刻表等の作成やバスマップ等、補助メニューをうまく活用して計画していくことになる。
- 3月が計画策定となるとすぐには難しい。交通会議は開催し、適時調査等の課題等、準備期間を取ってやっていきたい。計画作りが目的ではない。
- 委員：近隣自治体との関係、広域にまたがって運行している路線の位置づけ、それぞれの網計画の中でどのような位置づけにしていくのか、連携や整合性が必要。近隣自治体にしっかりとヒアリングをお願いしたい。
- 事務局：その他関連計画の中には近隣の自治体の計画等もあり、ヒアリング対象にも近隣自治体が入っている。いただいたご意見を参考にしながら計画策定にあたりたい。
- 委員：スケジュールが厳しい中で具体的な事業や施策を視野に入れながら計画を策定するとのことだが、具体的な施策や事業実施への道筋はできているのか？また何かしらの仮説に基づいたイメージなどがあるのか？
- 事務局：すり合わせをするためにデータを頂いて地図に落としたりしている段階である。その段階で色々と議論をして将来の形の仮説、裏を取っていく形で進めていく。

- 委員：事務局の方ではどうか？これまでの交通会議で課題が出てきたり、今後の方向性などイメージはあるか？
- 事務局：県町間の連携や、路線バス、ホープタクシーの連携、結節点の改善等が出来ればと考えている。タクシー事業を流用できないかと考えている。そういったことも今後擦り合わせをしていきたい。
- 委員：スケジュールの中にある分科会とはどういうものか？
- 事務局：分科会については、アンケート調査等での意見等の集約が終了し、仮設のイメージが出来上がり次第、方向性等についての事前の検討会というイメージで考えている。
- 委員：構成のメンバーは決まっているのか？
- 事務局：前回の会議で決めさせていただいたが、事業者、各地域から1名ずつ、県と国に入ってもらおう。
- 事務局：スケジュールの所で分科会の回数が4回となっているが、今後調査等で出た内容を小規模メンバーで議論して、課題を抽出したものを全体会議にかけるという2段階で考えている。期間が短いため、交通会議と分科会をスムーズに開催していく必要がある。
- 委員：五ヵ年計画を作る前段として3月までの取り組みの中で、住民の方の関心が高いバス路線の配置、現段階からどのように変わっていくのかといったところの情報を随時出してほしい。実際の形というものが5ヵ年計画の中でどの程度の時期で明らかになっていくのか、随時計画を作り変えていく部分であるとは思いますが、実際の路線の形がどの段階で見えてくるのか？
- 事務局：色々な案が出てくると思われる。ここをこうしよう、といった具体的なものが見えてくるとは思うが、網形成計画の書き方としては、ここをこうしますとはっきり書くのではなく、動きしろのあるまとめ方にしておき、実際考えて行く際には住民の方と一緒に作っていくのが良いと考えている。ある路線がどうなるのかというのは事業計画の中で作っていくことになると思う。事業のやり方も各自治体によってまちまちである。今年ここが変わりますとまでは言い切らない。
- 委員：計画の中で課題やニーズをまとめたものを作り、それは5カ年の計画の中で行政と地域で具体的にしていくという事か。
- 事務局：そうである。たとえば線路についての様々案が出たとしても断言はせず、後で動けるようなまとめ方にする。
加えてアンケート調査の結果で優先順位が出てくると思うので、いつの時点からと確定するのは難しいと思う。
- 委員：確定は五ヵ年計画の中でやってしまうという事か。
- 事務局：そうである。再編実施などは交通会議の中で具体的に検討していきたい。路線の中で役割分担、サービス水準等を設定し、下回るようであれば新たな路線の再編を次の段階で検討していく。
- 委員：P14にヒアリング先があるが、最近高齢者や認知症の方の交通事故が起こることがある。警察官関係にも交通安全や現状等のヒアリングをしたらどうか？将来的には免許返納者に対する試験施策を行っているところもある。そういったところにもヒアリングをしてはどうか。以前の交通会議で、北広島町の高速バスは広島市と隣接しており、パスビーを利用できるとよい。その一方、投資効果や事業者負担等も考えないといけないが、パスビーの導入の検討もしてもらおうとよい。また、新しいニーズの発掘という意味では町外から工業団地へ通勤されている方など、まとまった移動ニーズがあるようである。現状では自家

用車や企業の送迎で対応されているようだが、まとまった通勤需要等の取り込み、あるいは新しい路線が必要になるかもしれないが、新たなニーズを探ってみてはどうか。
総企バスが芸北と千代田を結ぶ路線で野菜を載せて運ぶ、東北などでもされている事業を北広島でも始められたとの事でメリット、デメリットや課題があるのかを確認していく。
住民代表の方向かありませんか？また住民意見交換会でもと思います。

(2) 議事2 北広島町地域公共交通網形成計画策定調査等業務の各アンケートの実施および乗降調査の実施について

委員：2点質問したい。1つ目は住民アンケートの間4について、回答者の手間を考慮してなのかもしれないが、医療機関の選択を判断した基準は患者数か？固有名詞を出された判断基準は何か？

2つ目は高校生アンケートについて、学校の協力を得られないかもしれないが、手順をみると郵送でお願いするなど直接伺って趣旨、重要性の説明をするべきではないか？

事務局：説明を割愛しておりましたが、実施前にはまず町の方からお願いをしてもらい、その後にお願いをする手順である。広島市内の高校がたくさんあり時間的に厳しいので電話でのお願いになると思うが、丁寧に説明はしていく。

委員：町内の学校位行けるのではないかと思った。3校しかないので努力してほしい。

事務局：住民アンケートの豊平医院が抜けていた件については、現在は案の段階であるため内容のツメがまだできていない。

事務局：ご指摘ありがとうございます。
他に何かあるか？

委員：タクシーの活用の計画があると聞いたが、例えば民生委員向けのアンケート等で運賃が高いのだがこういったサービスがあれば利用したいと思うのか、等も組み込まれてはどうか？

事務局：重要な設問であるので工夫して織り込みたいと思う。

委員：確認だが、アンケートを郵送で回収されて、回答内容の確認はするのか？質問の趣旨と違う回答や、無回答など枝番をふって確認するところまでしないのか？

事務局：入力作業の段階でおかしなものは外していく。設問によるが、分析の内容によるがデータのクリーニングを通常行っている。今回についてはアンケートがシンプルであるため一問一問に対応する形となる。

無記名なので遡っての対応は難しい。時間的な制約もあるため通常のやり方になると思う。

委員：住民アンケートの間6は意味があっているのか。公共交通はライフラインだと思っているので金額が高い等の判断で決められていいのか。重要性を認識した上で運行しているので疑問に思う。

事務局：地域の公共交通を守っていくためには、住民の方たちと一緒に変えていく必要があると考えている。お金がどれ位かかっているか等、意識していない方が多いのではないかと思う。情報を提供し、税金が含まれたものでやっていること、そういったものをどう考えていくかといった行政と住民の方のコミュニケーションを行い、そのくらいお金をかけているものなので一緒に守っていかないといけない事を意識してほしい趣旨も含まれている。

委員：説明を受けて解るのだが、これは町からのリクエストで入れているのか？

事務局：業務受託者からの提案である。すぐに公共交通の施策について判断をするのではなく、解釈を含めて会議等で議論の一つの材料になるかと思う。ライフラインとしての認識が住民の方にあまり浸透していない様であれば、カバーする様な内容でPRする事も必要となるかもしれない。また、住民の方から公共交通に対して期待が得られるかもしれない。少ない紙面のなかで行うので難しいが、いい表現の提案があれば頂きたい。

委員：すぐには思いつかない。問5の「町営バスを利用したが」とあるが、すべてが町営バスではない。

事務局：まだ調整中の段階である。「高速バス以外」の削除も含めて違う表現がいいと考える。バスに対しての質問が多いが、北広島町はむしろホープタクシーの利用もあるので「バス」だけを代表にした表現ではない方が良くと思う。「バス」の表現が多いが、現在の北広島町の現状では日中はホープバスが主体になっている事もあり、表現も検討していきたい。その他に設問の変更をした方がよいところはあるか？

委員：P1の下線部分「なるべく普段から公共交通が必要な方を優先してください」とあるが、この先10年20年先の地域の公共交通を残すといった意味で考えると次の世代、例えば自分たちがこの先免許返納をした時の公共交通の在り方はこうであるといった意見も片一方ではあった方がよいと思ひ、アンケート回答者を特定しない方がよいと思う。また、問7の「生活全般についておたずねします」の箇所についても今回のアンケートは将来の公共交通をどうするかという事であるので特に②の質問が今回のアンケートにどう反映するのか解らない。むしろ地域のライフラインとして新たなニーズを掘り起こす為の間なら中身の検討はあったほうがよい。道の駅の荷物を運ぶ、商業施設との話しの中での買い物代行等、物を運ぶ機能が将来的に持たれるか持たれないか。今回のアンケートの質問としてはいかがなものか。

事務局：まず最初の意見について、インフラ整備を伴わない公共交通は、今を対象にする必要があると考える。今回も将来を見据えて作っていくが、対象の方たちを今どうするかの話がメインになる。将来使う為には、今使って残さないといけない。利用促進策としてあえてそういう方にコミュニケーションアンケートのようなものを行うことがあるが、今、困っている方を救うには、今自動車を使えない方を中心に据えるという事でそういった書き方になっている。

二つ目については、公共交通は移動するためのものだが、地域の生活を守っていく為のものである。今後人口規模が小さくなる集落などもある中で、今と同じサービスを行うのがいいのかどうかという議論も必要となるケースもある。移動の代替サービスを考えてもよいのではないか。また、農産物の集出荷といった貨物の事業を考える場合、乗合タクシーでも運ぶことができるし、タクシーについては救援事業も可能であり、タクシー会社の仕事として出来る。

委員：問7の②に質問のサービス内容はすでにこの町では大半はあるとは思っているので、新規でやるのはおかしいのではないか。

事務局：アンケートを作るタイミングが現況と同時に進んでいるが、全地域をカバーしている。

委員：各地域でそれぞれ近い内容のことはすでに行っていると思う。

委員：問4の宅配のあたりはJAもやっている。買い物代行もおそらく近い将来はされるかもしれない。今されていることをさらに充実、拡大して空白地帯をとという考え方もあるかもしれないが、新しいニーズとして公共交通の機能付加としてやるのは違和感がある。

- 委員：このサービスを行っている事を知らない方がどれだけいるのかを問うなら理解できる。出張販売等はセブンイレブン、生協などもすでに行っており、ニーズに応じている。むしろその部分を充実させる事を考えるべきで、新参入にお金はかけなくてもよい。
- 委員：今のサービスを充実させる為には？という内容であればよいのではないか。聞き方を変えればいろいろな意見が出ると思う。
- 委員：現状の把握をした上で表現方法を変えて整理したい。選択肢も絞って事務局にやってもらいたい。
- また、アンケートだけを送るのではなく、路線バスの路線図、説明文、写真が入っていれば答えやすいのではないか。公共交通に対する支出、グラフ等もあれば回収率もあがるのではないか。
- アンケート調査の下線部「なるべく～」について、「いない場合は次の利用者になりうる人が回答ください」に書き加えてはどうか。全体調査をすると、利用していない方の意見が多くなって引っ張られてしまう可能性がある。一度廃止すると復活するのは難しい。
- 皆さんの意見を頂いたことは事務局、業務受託者と調整していく事で了承を得たい。
- 事務局：乗降調査について11月24、25日で予定している。その際には町内の事業者の方にご協力をお願いしたい。各路線、調査員には目印のあるものを示す。
- 委員：乗降調査については1月下旬というよりは雪が降っている時が条件なのか？
- 事務局：積雪があることを期待する。
- 委員：乗降調査ですがアンケートを配布、ヒアリングの併用、アンケートの目的が分かるようにしたい。集計結果は分科会などでお伝えしたい。現在の路線バス、ホープタクシーについては運行日報をつけておられると思う。ホープタクシーについては集計する話なので路線バスについてもデータの付け合せもしてほしい。

4 閉会

事務局：ありがとうございました。以上をもって北広島町地域公共交通会議を閉会する。